

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安全・安心・納得・満足の学校生活。「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」

- 学びの充実で生徒の夢実現！目標達成できる教育実践をめざす学校
- 丁寧な規律指導で規範意識を養い、寄り添う心で人間教育を大切にする学校
- 他者と自分を大切に、自己有用感をもって社会貢献できる人材を育成する学校
 - ・ 普通科…多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校
 - ・ 体育科…競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

2 中期的目標

1 確かな学力の向上

(1) 生徒が「何を学び」「何を理解し」「何ができるようになったのか」を自覚し、説明できる授業。

- ア TT、少人数展開、習熟度別、ICT活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。
- イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。

(2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。

- ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。
- イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。

※ 卒業時アンケートにおける「3年間勉学に一生懸命取り組めた。」の肯定率を令和5年度には75%以上とする。

(R2:72.0%、R1:63.4%、H30:62.8%)

※ 卒業時アンケートにおいて「大塚で3年間学んで学力面で伸びた。」の肯定率を令和5年度には70%以上とする。(R2:61.5%、R1:57.1%、H30:54.9%)

2 志や夢のはぐくみ

(1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能（的確な情報提供・進路HR・進路相談）の充実を図る。

※ 進路アンケートにおいて「第1希望をかなえることができた。」の肯定率を令和5年度には90%以上とする。(R2:91.1%、R1:82.2%、H30:

87.9%)

(2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。

(3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。

※ 大学（4年制）進学率を令和5年度には70%とする。(R2:58.2%、R1:53.0%、H30:55.5%)

※ 大学入学共通テストの受験者率を令和5年度には15%とする。(R2:4.8%、R1:12.0%、H30:14.4%)

※ 就職内定率を令和5年度も100%を維持する。(R2:100%、R1:100%、H30:100%)

3 豊かな心と社会性の育成

(1) 「あたりまえのこと（挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守）をあたりまえに！」を合言葉に、丁寧な指導で規律規範の確立、納得の生徒指導に努める。

ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。

※ 遅刻総数を令和5年度には550件以内とする。(R2:479、R1:678件、H30:843件)

イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安全で安心な学校づくりを推進する。

ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、保護者との三者面談100%実施をめざす。

エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。

オ 学校行事（大塚祭）の充実及び部活動の充実を図る。

※ 普通科生徒の部活動加入率を令和5年度には75%以上とする。(R2:71.4%、R1:66.3%、H30:64.0%) ※

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格の育成をめざす。

4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進（開かれた学校づくり）

(1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。

ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。

イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。

(2) オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。

ア スポーツ講演会の開催

イ スーパーインストラクター招聘事業

(3) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。

(4) 進展する少子化に対応するための魅力ある学校づくりを推進する。

(3) 首席、ミドルリーダーが中心となり、出前授業、学校説明会、中学校訪問など広報活動を成長の場面と捉えて、積極的に運営にかかわっていく。

5 次代を担う人材の育成

(1) 若手教員の育成とミドルリーダーの養成を図る。

ア ミドルリーダーが講師となり、自身の成長につなげるとともに、教職経験の少ない教員を対象とした校内研修を実施し人材を育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>【授業】 (生徒) 「授業について、教え方は工夫されている」以下肯定率(昨年度) 61.3%(49.0%) 「コンピュータや視聴覚機材などを使って発表する機会がある」 61.2%(42.1%)</p> <p>(教員) 「生徒の到達度に合わせて、学習指導の方法や内容について工夫している」 82.1%(89.8%) 「コンピュータ等のICT機器を教科の授業などで活用している」 88.9%(57.1%) 「参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」 71.4%(65.3%)</p> <p>*今年度重点目標に「授業改善に向けた取組みの推進」を掲げ、全HR教室にホワイトボードおよびプロジェクターを設置した。これにより、授業におけるICT活用がすすみ、数値は大幅に上昇した。しかし、「参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」(教員)は71.4%と十分とは言えず、今後、すべての教科で、生徒主体の授業への改善を実施していく必要がある。</p> <p>【生徒指導】 (生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」 63.9%(57.1%) (保護者)「学校の生徒指導の方針に共感できる」 65.8%(65.1%) (教員)「一人ひとりの生徒に向き合った生徒指導を行っている」71.4%(77.6%)</p> <p>*生徒保護者とも、数値は上昇しているが、「一人ひとりの生徒に向き合った生徒指導を行っている」(教員)の数値は下がっており、教育相談やケース会議との連携の在り方も検討すべきである。</p> <p>【進路指導】 (生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」 83.0%(79.1%) (保護者)「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 72.1%(73.0%) (教員)「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 82.0%(75.0%)</p> <p>*生徒教員の数値の上昇がみられる。生徒数の減少もあり、一人ひとりにきめ細やかな対応ができた結果であると考えている。</p> <p>【学校運営】 (教員)「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」 57.1%(42.9%) 「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」 75.0%(73.5%) 「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」 60.7%(46.9%)</p> <p>*すべての数値で上昇がみられ、教職員が意欲的に能力を発揮できる職場づくりが進んでいると捉えている。しかし、十分であるとは言えず、今後も職場環境の改善を含め検討していきたい。</p> | <p>第一回 学校運営協議会 令和3年6月21日(月) 書面開催</p> <p>(1) 令和3年度会長、副会長選出 (2) 大阪府立大塚高等学校 学校運営協議会 実施要項について (3) 令和3年度学校経営計画について (4) 令和4年度教科書選定について</p> <p>報告事項 (1) 36期生の進路状況について (2) 令和3年度体育科活動計画等について</p> <p>協議内容・承認事項等(意見の概要)</p> <p>【審議事項】 1. 令和3年度会長、副会長選出 賛成6 反対0により可決</p> <p>2. 大阪府立大塚高等学校 学校運営協議会 実施要項について 賛成6 反対0により可決</p> <p>3. 令和3年度令和3年度学校経営計画について 賛成6 反対0により可決 (意見) ・評価指標を明確にされており、わかりやすいと思う。</p> <p>4. 令和4年度教科書選定について 賛成6 反対0により可決</p> <p>【報告事項】 1. 36期生の進路状況について (意見) ・37期生も希望する進路に向けてご指導いただきたい。</p> <p>2. 令和3年度体育科活動計画等について (意見) ・コロナ禍で大変だと思うが、工夫して指導いただきたい。</p> <p>第二回 学校運営協議会 令和3年11月15日(月) 場所：校長室</p> <p>審議事項 (1) 令和3年度第1回授業アンケート結果と考察 令和3年度第1回授業アンケート結果について 座学は「生徒が自ら考える場面や発表する機会の多くある授業づくり」、実技は「ICT機器をうまく活用した授業づくり」を重点課題とし、今後全教科で取り組んでいくことが確認された。</p> <p>報告事項 (1) 学校教育自己診断項目について (2) 令和5年度制服改定について (3) 1人1台端末の導入について (4) 校務分掌より</p> <p>・学校教育自己診断の項目について 次年度も変更なし。</p> <p>・令和5年度制服改定について 来年創立40周年を迎えるにあたって、生徒の多様性に対応できるよう。改定を進めていることにご理解を得た。</p> <p>・1人1台端末導入について 取り組み始めたところで、今後活用の幅を広げるため研鑽する。</p> <p>・特になし</p> <p>第三回 学校運営協議会 令和4年2月14日 書面開催</p> <p>(1) 令和3年度学校評価及び令和4年度学校経営計画</p> <p>報告事項 (1) 令和3年度学校教育自己診断について (2) 第2回授業アンケート結果について (3) 令和3年度体育科活動報告について</p> <p>協議内容・承認事項等(意見の概要)</p> <p>【審議事項】 1. 令和3年度学校評価及び令和4年度学校経営計画 賛成6 反対0により可決 (意見) ・コロナ禍の中、様々な工夫をし、数値目標を明確にして次年度の計画を示している。 ・with コロナで対応が難しい中、臨機応変にお願いしたい。</p> <p>【報告事項】 1. 令和3年度学校教育自己診断について (意見) ・授業、生徒指導、進路指導、学校運営とも、校長のリーダーシップのもと、意欲的に取組み、成果がみられる。</p> <p>2. 第2回授業アンケート結果について (意見) ・特になし</p> <p>3. 令和3年度体育科活動報告について</p> |

(意見)
・特になし

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 [R2 年度数値] | 自己評価 |
|---------------|--|---|--|--|
| 1 確かな学力の向上 | <p>(1) 生徒が「何を学び」「何を理解し」「何ができるようになったのか」を自覚し説明できる力を養う授業。</p> <p>ア 授業改善に向けた取組みの推進</p> | <p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを取り入れた授業改善に関する教員研修を計画・実施する。 ・「大塚スタンダード」の確立 ・1・2学期に設定している研究授業週間に加え、1年間全ての授業を公開とし、授業改善に繋げる。 ・他校での実践から学び、講義型授業だけでなく、ペアワークやグループ学習を含む協同学習に取り組み、スキルアップを図る。 ・習熟度別展開授業やTT授業などにより、個々の生徒に応じた学力の向上を図る。 ・年間行事の精査を行い授業時間の増加に努める。 | <p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向け学校教育自己診断「参加体験型の学習などの指導方法の工夫・改善」の肯定率 75% [65.3%] ・授業ルールの徹底。令和4年度に向けて方針決定する。 ・教員相互の授業見学を行い、相互の観察結果をもとに、自己研鑽の材料とする。年間最低一度の授業見学(振り返りシート提出 50枚) ・全教員が必ず1度は他校での公開授業に参加する。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく、楽しい」の肯定率 50% [45.2%] ・授業アンケートの全項目(9項目)の平均肯定率 85% [78.0%] | <p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、グループ学習や協働学習の実施が困難な中、目標には届かなかったが、生徒用タブレット活用を含む授業力向上の意識の高まりから数値は上昇した。肯定率 71.4% (○) ・授業見学の振り返りで指摘し、意識付けを行った。(○) ・授業見学週間は実施できたが、ICTの研修や校長指示の研修等多忙感があつたことと、提出の徹底不足。授業見学シート 29枚 (△) ・コロナ禍の影響と、十分意識付けが出来ず研修が計画実施できなかった。研修報告書 30枚 実施率 68.2% (△) ・普通科の充実を掲げ取り組んだ成果がみられる。タブレット活用など一層の工夫を継続する。 55.6% (◎) ・タブレットの活用や教員の授業力向上への取り組みの成果が見られ、数値は上昇した。 第一回：3.27 (81.8%) 第二回：3.26 (81.5%) (○) |
| | イ ICTを活用した授業の推進 | イ | イ | イ |
| | ウ 生徒の学習意欲の向上への取組み | ウ | ウ | ウ |

府立大塚高等学校

| | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| 2 志や夢のはぐくみ | (1) 夢の実現に向けた進路指導の推進 ア ガイダンス機能の充実 | (1) ア ・学年ごとに進路 HR、進路分野別説明会などを実施し、生徒自らの意志で進路を選択できるような確かな情報提供を図る ・1年生を対象とした大学見学会を実施する。 ・保護者対象に奨学金説明会などを開催し、進路情報の提供に努める。 ・進路指導室の充実を図り、相談や資料閲覧など生徒の利用を一層促進する。 | (1) ア ・学年ごとに保護者対象の進路説明会や1・2年生対象の大学、短大、専門学校等の講師による進路分野別説明会の実施。 ・生徒向け学校教育自己診断「進路について必要な情報を提供してくれる」の肯定率 80% [79.4%] ・卒業生アンケートの「進路指導室利用」の肯定率 70% [70.8%] | (1) ア ・無事に実施でき、生徒の進路実現につながる説明会となった。(○) ・進路について必要な情報を提供してくれる」肯定率 85.6% (◎) ・卒業生アンケートの「進路指導室利用」の肯定率。 62.7% (△) |
| | イ 進学講習の推進 | イ ・放課後講習や休業中の集中講習などの各種発展講習を計画的に実施し、進学希望者を支援する。 ・休業中に学校外の施設において勉強合宿を実施し、学力の向上とともに、進路に対するモチベーションを高める。 ・分掌、教科を横断した総括する係を新設し、各種講習を効果的に実施する。 | イ ・早朝、放課後講習や夏・冬休み集中講習、センター試験前の直前講習などの実施 ・2・3年生を対象とした長期休業中に行う大学での勉強合宿の実施。 ・大学(四年生、短期)進学率 65%以上 [59.2%] ・センター入試受験者率 15% [4.4%] | イ ・早朝講習 1 講座、放課後講習 9 講座を常時開催、夏期講習 11 講座開設 (○) ・勉強合宿はコロナ禍により中止 (ー) ・大学(四年生、短期)進学率 61.4% (△) ・大学入学共通テスト申込者数 7 名、受験者数 5 名 入学希望者数の推移と関連が深いと考えられる。 2% (△) |
| | ウ キャリア教育の推進 | ウ ・企業開拓や面接指導の実施など、就職の希望者の状況に応じた指導を行うとともに、公務員試験に向けた講習を実施し、進路実現を図る。 | ウ ・就職内定率 100%維持 ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数の増加 [5名] ・卒業生アンケート「第1希望をかなえることができた」の肯定率 90% [91.0%] | ・就職内定率 100% (○) ・消防 1 名、警察 1 名、自衛隊 2 名、警察事務 1 名 5 名 (○) ・卒業生アンケート「第1希望をかなえることができた」の肯定率 95.7% (◎) |

府立大塚高等学校

| | | | | |
|--|--|---|---|--|
| 3 豊かな心と社会性の育成 | (1) 生徒の規範意識の醸成と教育相談体制の充実 ア 時間厳守・挨拶、ルールやマナーの遵守できる学校 | (1) ア ・早朝立ち番指導（挨拶と自転車指導、遅刻指導）を継続実施する。 ・遅刻の多い生徒に対し、「振り返りシート」などを活用し、丁寧な個別指導を実施する。 ・「教員自らが先に生徒へ挨拶を」を励行する。 | (1) ア ・教務遅刻数 700 件以下 [479 件] ・生徒向け学校教育自己診断「先生は言葉遣いなどについて指導してくれる」の肯定率 85% [81.6%] | (1) ア ・教務遅刻数 出席すべき日数が約 2 か月多かったが、予想以上に減少した。 513 件 (◎) ・社会人としての基本的な姿勢をしっかりと指導している。 91.6% (◎) |
| | イ 交通安全や薬物乱用防止に向けた規範意識の醸成 | イ ・交通安全教室、薬物乱用防止教室の実施や科目「保健」の学習など、教育活動全体で機会を捉えて、生徒への啓発に積極的に取り組む。 | イ ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 75% [72.2%] | イ ・他者を大切にすることが自分を大切にすることであることが伝えられた。人権学習も充実している。 86.1% (◎) |
| | ウ 個に応じた支援体制の充実 | ウ ・教員研修の充実を図り、教員の意識を高め日頃からカウンセリングマインドを持ち生徒に接する。 ・ケース会議を効果的に運用し、生徒支援に努める。 ・家庭との緊密な連携を図り、生徒の状況の把握に努め、課題の早期発見をめざす。 ・教育相談室の有効活用を促進する。 | ウ ・生徒向け学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 58% [57.8%] ・積極的な「ケース会議」の開催 ・懇談週間等、様々な機会における保護者との三者面談の実施率 100% | ウ ・平素の情報共有や、教育相談が機能している。今後も生徒に寄り添う姿勢で指導に取り組む 67.4% (◎) ・各学年から様々な課題のある生徒が報告、情報共有され、学校全体で取り組んでいる。実施実績 2 名 2 回 ・三者面談実施率 100% (○) |
| (2) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上 ア 部活動活性化へ向けた取組みの推進 | (2) ア ・クラブ紹介の充実や新入生全員参加のクラブ見学の複数回の設定など体験入部の方法を改善し、普通科生徒の部活動入部を促進する。 ・大塚祭等において文化部の活動を発表する機会を増やす。 | (2) ア ・普通科の部活動入部率 75% [71.4%] 普通科の文化部加入率 10% [8.6%] | (2) ア ・普通科の部活動入部率 72% ・普通科の文化部加入率 20% コロナ禍ではあるが、部活動は年々盛んになってきている。(◎) | |
| イ 学校行事の充実 | イ ・大塚祭体育の部の取組みを継続するとともに、文化の部の充実・活性化を検討する。 ・普通科生徒にとって一層魅力ある学校づくりを推進する。 | イ ・生徒向け学校教育自己診断「大塚祭等、学校行事は工夫されている」の肯定率 70% [67.1%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率 体育科 85% [体育科 85.6%] 普通科 75% [普通科 71.7%] | イ ・コロナの感染防止対策のため、来場者の制限だけでなく、取組みにも大きく制限をかけた中ではあるが、生徒自身がよく理解し、教員との指導の下、意欲的に取り組んだ。73.4% (◎) ・部活動加入者が 80%近い本校において、部活動に制限のかかったコロナ禍で数値は上がらなかった。 体育科 83.4% 普通科 75.1% (○) | |
| (3) 生命の尊さに気づかせ自他を認める態度や人格の育成 ア 総合的な人権教育の推進 | (3) ア ・「人権教育推進計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。 ・教員対象の研修会を実施し、生徒に寄り添い人権 | (3) ア ・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率 75% [72.0%] | ア ・同和教育を中心に、研修を実施し、人権教育全般に積極的に取り組んだ 肯定率 92.5% (◎) ・目標数値には届いていないが、学校全 | |

府立大塚高等学校

| | | | | |
|--|---|--|---|---|
| | <p>イ 災害時に自らの命を守る行動ができるよう安全指導の徹底</p> | <p>に配慮した生徒指導、部活動指導などに努める。</p> <p>イ ・日常的に安全教育・指導に努め、災害時の避難行動について理解できるよう、様々な事態を想定した実践的な避難訓練を行い、生徒の安全に関する、意識の向上を図る。</p> | <p>・卒業生アンケート「人権問題に関心をもっていますか。」の肯定率を 85% [72.0%]</p> <p>イ ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率 70% [60.2%]</p> | <p>体で人権意識の高まりを感じる。 78.8% (○)</p> <p>イ ・コロナ禍で避難訓練は未実施。 肯定率 57.5% (－)</p> |
|--|---|--|---|---|

府立大塚高等学校

| | | | | |
|--|---|--|--|---|
| <p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p> | <p>(1) 競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化</p> <p>ア 競技力向上と効果的な指導方法の研究</p> <p>イ 地域とのスポーツ交流と地域貢献の推進</p> <p>(2) 魅力ある学校づくりの推進</p> <p>ア 学校広報の充実</p> | <p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートを招聘した「スポーツ講演会」や運動部活動における「スーパーインストラクター招聘事業」などを実施し、運動部部員の意識を高める。 ・高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上に努める。 ・「運動部活動ガイドライン」を踏まえ、週1日の活動休止日の設定や効果的な活動時間、練習方法を研究する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育資源を活用し、地元小学生を対象した「ふれあい大塚スポーツ教室」を実施し、スポーツ交流を推進する。 ・中学校運動部を招いた「大塚 CUP」を実施し、スポーツ拠点校としての交流を推進する。 ・文化部の老人福祉施設などの訪問や自治会を中心とした地元中学校との連携及び市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加し、地域交流・貢献に努める。 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルした HP の効果的な運用を図るため、学年、部活動等ごとにデータ提供を行う担当者を位置付け、中学生等への情報発信に努めるとともに、在校生保護者の安心・信頼感を高める。 ・本校で実施する学校説明会（年間4回実施）の充実を図る。 ・全教員による中学校訪問を実施し、本校の教育活動の周知を図る。 | <p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒対象の「スポーツ講演会」及び運動部活動生徒対象の「スーパーインストラクター招聘事業」の継続実施 [11回] ・全国高校総体など全国大会への複数クラブ出場 [陸上競技部] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目と参加者の増加 [実績なし] ・地域中学校の運動部を招待した大会「大塚 CUP」の開催 [実績なし] ・文化部の保育園や老人福祉施設等への交流事業を促進する。[実績なし] ・生徒向け学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 45% [44.4%] <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供の努力」の肯定率 72% [68.2%] ・学校説明会「参加者アンケート」の肯定率 95%以上 [95%] ・オープンスクールを1回実施 ・中学校訪問数 150 校以上 [135校] | <p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ講演会はコロナ禍のなか、感染予防対策を徹底して実施。「スーパーインストラクター招聘事業」も計画通り実施 11回 (○) ・陸上競技部が大阪、近畿、全国で成績を残した。・陸上競技部は全国大会にのべ35名の選手が出場 (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい大塚スポーツ教室」はコロナ禍のため中止 (一) ・「大塚 CUP」はコロナ禍のため中止 (一) ・文化部の保育園や老人福祉施設等への交流事業はコロナ禍のため中止 (一) ・コロナ禍で、学校全体としては実施できなかったが、各運動部の個々の取り組みが年度後半に実施できたためか、数値は上昇した。 47.8% (○) <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、年度当初の進路説明会が書面やオンデマンドになったことが影響し目標達成に至らず。 67.3% (△) ・第4回学校説明会参加者 106名 第3回を大きく上回った (174%増) 参加者合計 417名 (昨年度 359名) (◎) ・ワンデー大塚は、生徒の平素の姿を一般に見ていただくことで、落ち着いた大塚、安全・安心の魅力の発信に繋がった。(◎) ・延べ172校を予定。コロナ禍で訪問を断念した中学校、郵送を希望された学校を除き訪問校は 100校 (一) |
| <p>5 次代を担う人材の育成</p> | <p>ア 人材の育成</p> <p>イ 労働安全衛生管理体制の充実</p> | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者も含め、2年めから4年めまでの教員を対象とした「フレッシュマンセミナー」を継続実施する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化とともに、安全衛生委員会の活性化を図り、教職員の健康管理体制を充実させる。 ・部活動顧問間の業務分担を明確にし、主顧問の負担軽減を行う。 | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フレッシュマン・セミナー」の開催年3回自校の課題解決に向けての研修 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識改革を進め「時間外勤務月80時間以上」の延べ人数の減少をめざす。 | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年め経験者研修受講者3名による公開研究授業を実施、ICTの活用を含めた授業力向上と本校の課題を総括し、年度末に発表予定。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の定時開催をはじめ締め切り厳守や業務の重要性和緊急性をコントロールし減少に努めた。 延べ人数 56名 (昨年度 66名) (○) |